

優秀賞

# びじゅんわらわ

愛知県 蒲郡市立中央小学校四年 星野 佑佳

「グリーン、ガガー。」  
パッカー車が、あつい夏の日ざしをうけて、今日も、ごみを集めている。

ごみを集めているおじさんたちの顔は、汗びっしりだ。私は心の中で「ごくろうさま」と、つぶやいた。

本当は、大きな声で「ありがとう、ごくろうさま」と言っておきたいのに。

月・木曜日になると、晴れた日はもちろん、雨の日も強い風の日もごみ収集所におじさんたちはやってきて、それも時間通りにやってきて、てきぱきパッカー車の中に、置いてあるごみを入れていく。

夏休みになった私は今日も様子を見に行く。置かれているごみにもいろいろある。口がきちんと閉じられている物もあれば、しっかりしぼってない物もある。口が開いて中のごみが出てしまっ

る物もある。出ている物が生ごみや魚のほねだと悪だ。においもひどい。

今日は、最高気温こう新、とても暑い日。ごみから出るにおいは遠くからでも分かる。

時間通りに今もパッカー車がやってきた。

ごみ収集所の横にパッカー車を止めると、おじさんたちは、いやな顔一つせずにごみをパッカー車に運ぶ。

「あっ、生ごみがこぼれた。」

「もう少し、きちんとしぼればいいのに。」  
と、心の中でさげんだ。

すぐさま、おじさんは手でその生ごみを拾い、パッカー車の中に入れた。においもすごいのに。

もし、この人たちがいなかったら、どうなるだろう。町中にごみがいっぱいちらばりきたない町になるだろう。ごみのおいがたちこめ、くさい町にな

るだろう。考えただけでもいやになる。

そう思うと、ちょっとした優しさで、おじさんたちが助かるだろう。

例えば、きちんとごみぶくろの口を閉めること。生ごみはとくに散らばらないようにしぼること。あぶない物を入れないこと。もっと言うと、リサイクルしごみをへらすこと。

食事しながらいろいろ考えた。

私は、おじさんたちに「ありがとう、ごくろうさま」と言っておきたいけど、勇気がない。ちよっぴりはずかしい。

夏休みになって気付いた様子だ。今まで学校にいて気付かなかった。

「佑佳、ごみ出してくれてくれる。」

「はい。」

ごみぶくろ点検よし。

町をささえるヒーローおじさんのための、私からの少しばかりのおくり物。

「おじさん、今日もがんばってね。私、応援してるから。」

